

全国

長南会

通信

66

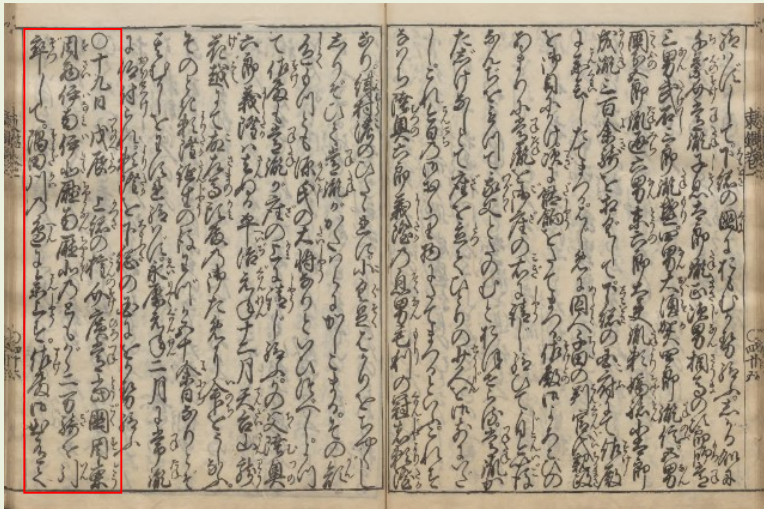
号

事務局 : 300-0301 茨城県稲敷郡阿見町青宿 930 長南秀則 TEL/FAX 029-887-3190

発行日 : 令和 02 年 07 月 20 日

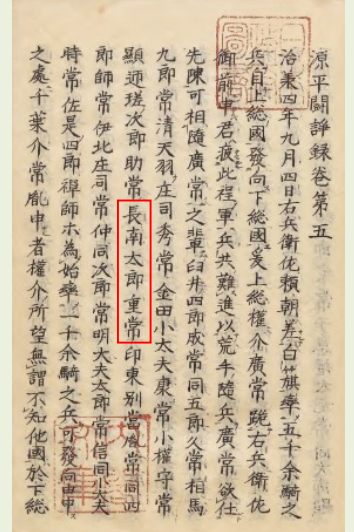
長南忠春、長南忠清の考察

江南 正



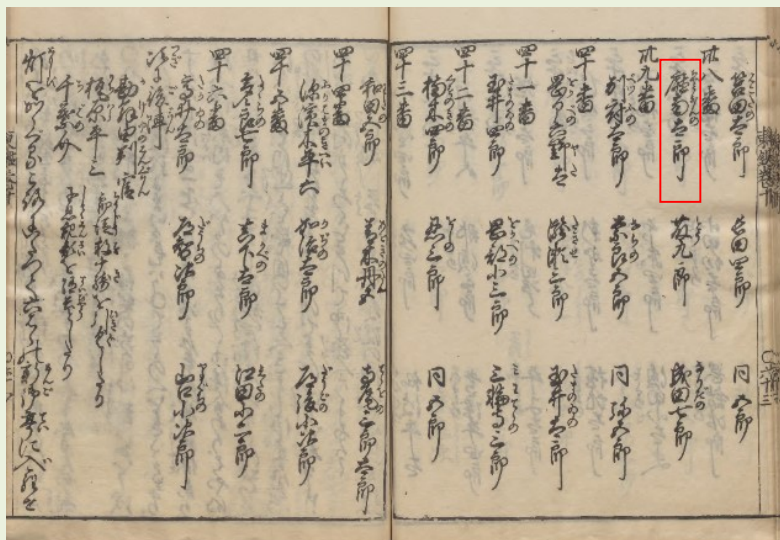
『吾妻鏡』 第一巻原文

治承四年(1180年)九月十九日 戊辰 上総権介廣常は、上総国の周東・周西・伊南・伊北・斤南・斤北の者たちを導いて軍勢二万騎で隅田川の辺りに参上した。



『源平閻諍録』 第五巻原文

治承四年九月四日、右兵衛佐頼朝、白旗差して五千余騎の兵を率して、上総国より下総国へ発向す。爰に上総権介広常、右兵衛佐の御前に跪きて申しけるは、「君は此の程の軍に疲れさせたまひしうへ、兵共も進み難くす。荒手の随兵を以つて広常先陣を仕らんと欲す。広常に相ひ随ふべき輩には、臼井四郎成常・同五郎久常・相馬九郎常清・天羽庄司秀常・金田小太郎康常・小権守常顯・匝瑳次郎助常・長南太郎重常・印東別当胤常・同四郎師常・伊北庄司常仲・同次郎常明・大夫太郎常信・同小大夫時常・佐是四郎禅師等を始めと為て、一千余騎の兵を率して発向すべき」由を申す処に、千葉介常胤申しけるは、「権介所望 謂れ無し。



『吾妻鏡』 第十巻原文

建久元年(1190年)十一月七日 頼朝が三条大路の末を西に行き、河原を南に行き、六波羅に到着した時の随兵三十八番に斤南太郎

錦絵に描かれる忠春と忠清

長南七郎忠春

1. 一の谷合戦

天保4年(1833年) - 明治37年(1904年)幕末から明治にかけて活躍した浮世絵師 落合芳幾
別名一恵齋芳幾

2. 阿波国勝浦合戦

寛政9年(1798年) - 文久元年(1861年)江戸時代末期の浮世絵師 歌川国芳

3. 蝦夷渡之凶 文政11年頃(1828) - 明治20年頃(1887)の浮世絵師一孟齋芳虎

元暦2年(1185年)4月21日の頼朝に届いた梶原景時の書状から義経は家臣から反発や恨みを買っていた事が伺えるので、以後義経には同行していない可能性が高いと思われる。その理由は義経記、義経十九臣にも入っていない。あの有名な義経が頼朝に宛てた腰越状で当然満福寺に留め置かれた時に列席する郎党にもいない。義経は頼朝の怒りを買って衣川の戦いで自害しているのに、後年江戸時代に蝦夷渡り伝説が浮上し、その中に義経の郎党として突如忠春が登場してくる。

活動期間 治承4年(1180年)9月19日~元暦2年(1185年)2月16日

長南七郎忠清

1. 鎌倉大評定

江戸時代末期から明治時代初期にかけての浮世絵師 一寿齋芳員(歌川芳員)
上総介忠清が登場する。

義経とその郎党は列席しているが、上総介廣常は「親義仲」とみなされた警戒心から招集されていない。

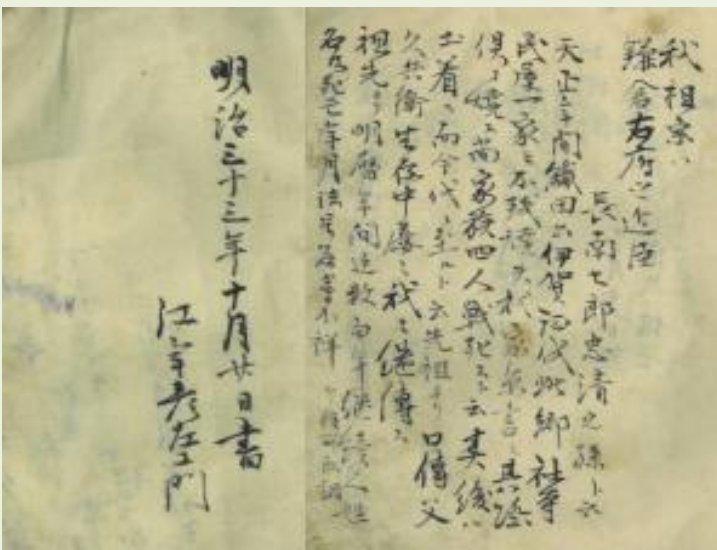
2. 鎌倉英勇鑑

歌川 広重, 1842-1894、歌川 芳幾, 1833-1904

兄弟説と同一人物説が浮上するが、鎌倉英勇鑑には清和源氏の略全員がリストアップされているから別名があってもおかしくない。

その後

時代背景から寿永3年~元久元年(1184年~1204年)8月6日、隠然たる勢力が続いた三日月平氏の乱後平氏に代わり、台頭してきた在地武士の被官化防止の為、伊賀守護職にあった千葉氏の関係から鎌倉より、守護代として伊賀国に派遣されたと推察する考えが、現時点では最も有力説ではあるが、それを決定づける古文書が見出せない。



我祖宗ハ
鎌倉右府之近
臣長南七郎忠清の孫ト
云天正年間織田公伊賀征伐灼郷社寺
民屋一家モ不残焼失祖家系書モ其消
焼シ尚家族四人戦死ス云其後ハ
土着ニ而今代至ル云先祖刊口傳父
久兵衛生存中屢々我ニ継傳ス
明暦年間逾數百年继续人姓
名及死亡年月法号名等不祥今後可取調

明治三十三年十月廿日書
江南彦左工門

長南七郎忠清が元服して間もなくか、20歳頃の頼朝挙兵の参陣と考えて、建長元年(1249年)まで生きたとすれば89歳、その子供は70歳~50歳、孫になると50歳~30歳そして隠居が50歳

宝治合戦で幼少期を過ごした千葉氏当主千葉頼胤の家臣として清忠なる人物が伊賀国守護代として名前があるが、臼井氏にも清忠なる人物があり素性が明らかでない。むしろ中村先生がいう忠宗が正しいのかもしれない。

伊賀国にきた理由は

1. 忠宗をとりまく環境（幕府の命令で一族の多くが処分）
 2. 清忠との因果関係で補佐をしていたかも？
- 他にもいろいろな国があるのにどうして伊賀国か？しかも長南氏と関係ある千葉氏であることその千葉家家臣と共にこの地伊賀国にきたと推測するのは強引であろうか？

<p>保元元年(1156年) 保元の乱 皇位継承問題や内紛により、朝廷が後白河天皇方と崇徳上皇方に分裂し、武力衝突に至った政変</p> <p>平治元年(1160年) 平治の乱 天皇に代わって政務を直接行う天皇、上皇の側近及びその集団らの対立により発生した政変</p> <p>治承5年(1181年) 正月高倉院が崩御、相次いで平清盛も死去</p> <p>寿永2年(1183年) 木曾義仲が平氏を都落ちに追い込み入京</p> <p>寿永3年(1184年) 一ノ谷の戦いで義経は鶴越の逆落しの奇襲</p> <p>寿永3年(1184年) 義経は河越重頼の娘（郷御前）を正室に迎えた</p> <p>元暦2年(1185年) 義経は壇ノ浦の戦いで勝利した</p> <p>文治2年(1186年) 義経の郎党達源頼朝に殺害された 義経は、藤原秀衡を頼って奥州へ赴く</p> <p>文治3年(1187年) 奥州藤原秀衡 病没 秀衡の子藤原泰衡は再三の鎌倉の圧力に屈して、500騎の兵をもって10数騎の義経主従を藤原基成の衣川館に襲った（衣川の戦い） 館を平泉の兵に囲まれた義経は、一切戦うことをせず持仏堂に籠り、まず正妻の郷御前と4歳の女子を殺害した後、自害して果てた 享年31であった</p>	<p>七郎忠春</p> <p>七郎忠清</p> <p>鎌倉大評定</p> <p>一ノ谷戦い</p>
---	---

上総氏全一族

千葉氏、相馬氏、印東氏、印西氏、印南氏、長南氏、長北氏、宍南氏、宍北氏、伊南氏、伊北氏、周東氏、周西氏、埴片氏、佐野氏、天羽氏、金田氏、円城寺氏、潤野氏、木内氏、大椎氏、臼井氏、角田氏

『吾妻鏡』には2万騎、『延慶本平家物語』では1万騎、『源平闘諍録』では1千騎、1万9千騎の差があり、60年後から100年後に書かれた書物でもこれだけの違いがある事に注目したい。『吾妻鏡』は1241年～1300年頃で編纂者は幕府中枢の複数の者、『延慶本平家物語』は1240年頃で編纂者は信濃前司行長『源平闘諍録』は1337年で編纂者は千葉氏関係者?坂東各地では新知行国主の平氏家人や平氏方目代により旧知行国主系の豪族達が圧迫されていた。頼朝が挙兵した場合旧知行国主系豪族に有利な上総介廣常の配下にあった事から上総氏の一部族として 治承4年9月(1180年)武蔵国で参陣し鎌倉入りをする。

記紀の原書は縄文時代に存在した

私たちは中学生の時、国語の時間に日本で一番古い古文書は「古事記」ですと教わりました。ところが古事記以前に書かれた原書が発見され更にはそれを現代語に翻訳された方がいらっしやるかと小生に知らせてくださった方がおります。

中村大志さんです。(株)サンプロジェクト勤務) 中村さんとのご縁は何十年か前に日本橋高島屋でのにんにく卵黄展示即売会だったと記憶しております。

俊春 久喜市

『ホツマツタエ』 縄文時代の古代文字が語る



鹿児島県の霧島市に上野原遺跡という所があります。鹿児島の方なら一度は訪れる場所ではないでしょうか。日本でも代表的な遺跡のひとつだそうですから、ご存じの方もいらっしやるかも知れませんね。

どうして有名なのかというと、縄文文化はもっぱら東日本で栄えたとされる定説を覆す発見だったからなんだそうです。

最も古い遺跡が9500年前(縄文時代早期)、そして7500年前、さらに6000年前、3500年前、2500年前、2000年前(弥生時代)、そして1600年前(古墳時代)と、何層もの地層から定住のムラ跡が発掘されたということだそうです。いつだったか上野原遺跡に行ったことがありました。だけど、考古学のことなど何も知らないですから、それほど印象には残っていませんでした。昨年の事になりますが、せっかく話を聞いたので、通り掛かりにまた行って見ました。

そんなことの後、お客様からお便りをいただきました。古事記・日本書紀の原本となった「ホツマツタエ」という本があるので、ぜひ読んでみてください。日本の本当の歴史が書いてあります。とのことでした。本当の歴史とは何?本を読むのはあまり好きではないんですけど、その謎めいた言葉が気になって読んでみました。

さて、ホツマツタエとは何かといいますと、かなり大雑把に言うと、日本で古来から使われてきたヲシテという文字で書かれている日本の歴史哲学文献です。ホツマツタエは昭和41年に発見されました。発見なさったのは松本善之助先生。現代用語の基礎知識という本を作られた初代の編集者の方です。発見以来全てを投げ打ってホツマツタエの研究・解析、捜査に生涯を捧げられました。この文献を解き明かし、後世に残すことが、未来の日本にとって、とてつもない恩恵になるとの信念からです。ホツマツタエに書いてある内容からさらに捜索を進めて発見されたのが、ミカサフミという文献と、さらにフトマニという文献でした。それぞれの文献が違う著者によって書かれ、違う系統の家系で写し伝えられ、遠い時代から代々に渡って著述内容の研究がなされてきた文献です。どれも同じヲシテ文字で書かれているのでヲシテ文献と呼ばれています。

ホツマツタエの方が先に全巻40アヤが発見されたので、先に研究が進んで世に出ることになりました。ミカサフミ、フトマニは、ホツマツタエよりも内容が高度で、格式が高く、まだ100巻のうちの2巻が発見されただけですが、未発見のものもいつかは発見できると期待されています。



さて、ホツマツタエには何が書いてあるかとい
いますと、あらゆることが書いてあるので、何と
は言い切れないところがあります。登場人物は古
事記・日本書紀と重なるところが多く、話は似て
いるところもあれば、似ていないところもあり、
記紀に書いてないことが詳細に書かれています。
記紀と大きく違うところは、上（かみ）の代のこ
とが神様として書かれているのではなく、人とし
て、つまり僕たちと同じ人間として書かれている
ことです。

たとえば、アマテルカミという表現が出てきま
す。この場合のカミは、神ではなくて「様」とか
「上の代のご先祖様」という意味合いになるかと
思います。

そしてホツマツタエは1アヤから40アヤま
であって、行数にして1万行、文字数にして11
万文字余りあります。それが最初から最後まで五
七調で書かれています。文を書くときは、五七調
で書くのが古代からの習わしだったのではない
でしょうか。古代とは、どのくらいの古代なのか
といいますが、最初にこの国を建国したのは、ク
ニトコタチという名の人でした。古事記の最初
の方に出てくる神様ですね。それは今から6千年
くらい前の、縄文時代前期となります。国の名はト
コヨクニといいますが、トのヲシエという憲法に基
づいて国を建てたのでトコヨクニです。クニトコ
タチが国を建てる前の代までは、ミナカヌシの代
といって、何千年も続いてきました。その時代の
人は寿命が途方もなく長かったそうです。それま
で穴を掘って暮らしていた人たちを、クニトコ
タチ穴から出して、平地に建物を建てて住めるよ
うに教え、粟など実のなる木を植えて、食べ物に困
らないようにしました。ヲシテ文字を作ったのも
クニトコタチなんだそうです。クニトコタチは初

代アマカミ（古代の天皇）です。秀でた人格と、
並外れた知恵を持ち合わせていたので、民たち
の誰からも慕われていたそうです。

二代目のアマカミはクニサツチ。三代目はト
ヨクンヌ、試作的に稲作が導入された時代で
す。四代目はウビチニとスビチニ。本格的な稲
作と桃と雛を使った結婚の儀が執り行われる
ようになりました。それが今の桃の節句として
伝わっています。

五代目はオオトノノチ・オオトマヘ。六代目
はオモタルとカシコネ。収穫物の減収により世
の中が大いに乱れました。そこを救ったのが七
代目のイサナギ・イサナミ。水田の普及と、馬
や牛を使った農法を全国に教えて回り、世の中
の混乱は治まりました。八代目はアマテル。古
事記の天照大御神ですね。イサナギとイサナミ
がお世継ぎの男の子を設けるために何千日にも
及ぶ禊をし、1月1日に朝日が昇る時に生まれ
たのがアマテルです。ハタレという悪い集団
が人民を困らせる、ハタレの乱というのがあ
り、アマテル自ら陣頭指揮を取って戦い、世
の中を治めました。その他、エピソードには枚
挙にいとまがありません。類い稀なる天性の資
質と幼少の頃からのたゆまぬ修練、勉学、奥義
の伝授などで、全知全能、まさに神そのものレ
ベルかと思われます。アマテルの本名はワカヒ
トです。九代目はオシホミミ。十代目はニニキ
ネ。古事記の天孫降臨の、ニニギノミコトで
すね。十一代目がホホデミ。十二代目がウガヤ
フキアハセズ。そして初代天皇の神武天皇（タケ
ヒト）と続きます。他にこんな話もあります。



古事記にヒルコという子が出てきます。イサナギとイサナミの最初の子ですから、アマテルのお姉さんになります。古事記では、イサナミのために産屋を作って生まれた子はヒルコだったので、葦船に入れて流した。次に淡島を生みましたが、この子も子の数には入れません。と、このように書いてあります。

ホツマツタエでは次のようになっています。イサナギ・イサナミに最初に生まれた子はヒルコです。ところがヒルコが生まれたときにイサナギは42歳、イサナミは33歳で、夫婦共にアメノフシという厄年にあたるのが分かりました。厄年での子育ては親の心身の悪いところが子にうつるので、他の人に育ててもらおうという風習がありました。そこで二人はヒルコを捨てる儀式をすることにしました。捨てる役割を担ったのはカナサキ・エシナズ夫妻です。夫妻は乳飲み子亡くしたばかりでした。乳母としてヒルコを育てる子はカナサキの悲しみを和らげることにもなりました。カナサキ夫妻は和歌の名人でした。ヒルコにはワカヒメという名をつけとても大切に育てました。

赤ちゃんの時は愛しくあやし、誕生日にはお食い初めと歩き始めのお祝いを、三歳の冬には髪結い、元旦には天地を敬い、3月3日の桃の節句には雛祭り、5月5日は菖蒲を飾ってちまきを食べました。7月7日は七夕、9月9日は菊と栗のお祝い、5歳の冬に男は袴を着て、女は被衣を着ます。そしてアウウタを習い始めます。ワカヒメが育った場所は今の兵庫県西宮市の広田で、カナサキ夫婦がワカヒメを捨てたことから、ヒロタという地名のなったのだそうです。

1月10日の十日えびすの日に、西宮神社の福男がテレビのニュースで取り上げられますよね。早朝の開門と同時に大勢の人が一斉にダッシュにて一番福を競うやつです。西宮神社といえば、えびすさんの総本社です。ワカヒメが生まれた時の名はヒルコでした。ヒルコは船で捨てられて、のちに恵比寿になったという伝説があります。ヒルコを漢字で書

ヲシテ文字

𠄎と	𠄎て	𠄎つ	𠄎ち	𠄎た	た	𠄎	𠄎	𠄎	𠄎	𠄎	あ	あ
𠄎	𠄎	𠄎	𠄎	𠄎	ら	𠄎	𠄎	𠄎	𠄎	𠄎	か	か
𠄎	𠄎	𠄎	𠄎	𠄎	さ	𠄎	𠄎	𠄎	𠄎	𠄎	は	は
𠄎	𠄎	𠄎	𠄎	𠄎	や	𠄎	𠄎	𠄎	𠄎	𠄎	な	な
𠄎	𠄎	𠄎	𠄎	𠄎	わ	𠄎	𠄎	𠄎	𠄎	𠄎	ま	ま

くと蝦児とか蛭子です。蝦児、蛭子ともに、えびすと読みます。ですから、ヒルコ＝蝦児＝ワカヒメ。こういう等式が成り立つのではないのでしょうか。

そういったことが読み取れるヲシテ文献ですが、それは西宮神社に限ったことではなくて、全国各地の神社、伝説、伝承と、ヲシテ文献に書いてある内容が一致するのだそうです。ところで君が代の「きみ」はイサナギの「き」とイサナミの「み」なんだそうです。イサナギ様とイサナミ様の昔からずっと続いてきた代は、千年も幾千年も続くうちに皆がさざれ石のようにがっちり団結した巖となって苔がむすほどの未来永劫までずっと続いてゆきます。これが君が代の意味なのだそうです。考えたこともありませんでした。手帳にメモをとっておいてオリンピックの頃に見返したいと思います。

さて、ヲシテ文献は、ヲシテ文字で記されています。ヲシテ文字は5つの母音と10の詩音の組み合わせになっていて、読み方は1文字に1音ですから、ひらがなやカタカナと同じです。ただ、文字の形が全く違います。5つの母音と子音それぞれの形と、10の子音それぞれの形に意味があり、さらに母音と子音を組み合わせた48文字ひとつひとつの文字にも意味があります。ですから、全部の文字が表音文字でありながら、表意文字でもあり、しかも声に出す音にも意味があって、さらに文字の並べ方にも意味があります。母音の「あいうえお」は現代と同じです。子音の並べ方が「あかはなまたさやわ」の順番になります。そして48音を全国の人達が正しく習得できるようにと創られたのが、アウウタというものです。「あ」で始まり「わ」で終わるので、アウウタと名づけられました。アウウタを創ったのはイサナギとイサナミです。

会計報告

2020/01/01～2020/06/30

科目	期首残高	期末残高
現金	65,746	85,199
当座預金	92	24,228
普通預金	563,389	626,391
合計	629,227	735,818

期首残高	629,227
入金	243,002
出金	136,411
期末残高	735,818

科目	入金	出金
会費	243,000	
受取利息	2	
和泉守墓管理費用		30,000
紅花祭り協賛金		20,000
通信印刷代		13,530
通信発送費		11,176
旅費交通費		30,904
通信費		1,140
接待交際費		2,640
事務用品費		9,485
新聞図書費		3,672
雑費		13,864
合計	243,002	136,411

2020長南べに花まつり



長南町べに花まつりは、コロナ感染症の影響でべに花の公開のみで出店などのイベントは行わないということだったが、長福寿寺境内は沢山の人で賑わっていた。吉ゾウくんの前に行列が？... 皆さん吉ゾウ君の足元で何やらお祈りをしている。並んでいた人に聞いたところ、宝くじを持って、お祈りするために並んでいるという。お参りした人が宝くじの高額当選をしたとのこと！それがテレビで放映されたの

で、沢山の人々が参拝しているんだそうだ。この日は6月20日（土）、緊急事態宣言が解除され、他県への移動が解除されたばかり。そのせいか関東近県の各地に観光客が出かけているようだった。それでも、長



サマ-ジ-ンボ
上等当選はひた!
ま-ゾウ君の足元
T.U

南会の皆さんは油断禁物！三密を避けた生活を心がけて、マスクを着けて、コロナに感染しないように気を付けてください。